

H24-B14-2 140.04~147.13m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
601	140.04	140.33	140.04	140.33	<p>割れ目発達部。一部硬質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。</p> <p>(コアの硬さ欄)Cランク</p>	<p>割れ目発達部。傾斜5~30°の微細な割れ目からなる一部硬質部(硬さB)が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。</p> <p>(コアの硬さ欄)Cランク</p>	140.04	140.33	<p>140.04~140.33m:傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。一部硬質部が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。</p> <p>(コアの硬さ欄)Cランク</p>	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
602	140.04	140.33	140.04	140.33	(コアの硬さ欄)Cランク	(コアの硬さ欄)Cランク	140.04	140.33	(コアの硬さ欄)Cランク	-
603	140.33	141.71	-	-	<p>上位に比べて割れ目傾度は小となるが、割れ目沿いの細片化がみられる。割れ目は30~50°をなす。</p> <p>(コアの硬さ欄)Cランク</p>	-	140.33	141.71	<p>140.33~141.71m:上位に比べて割れ目が少なくなるが、割れ目沿いの細片化は見られる。傾斜30~50°の割れ目が分布する。</p> <p>(コアの硬さ欄)Bランク</p>	-
604	140.33	141.71	140.33	141.71	(コアの硬さ欄)Bランク	(コアの硬さ欄)Bランク	140.33	141.71	(コアの硬さ欄)Bランク	-
605	141.71	142.00	141.71	142.00	(実質欄)2ランク	(実質欄)3ランク	141.71	142.00	(実質欄)3ランク	-
606	141.71	142.00	141.71	142.00	<p>低角度(10~30°)の割れ目が発達し、大半の割れ目沿いが細片化、細粒化し、軟質となる。岩芯の一部は硬質(硬さC)である。</p> <p>(コアの硬さ欄)Cランク</p>	<p>低角度(10~30°)の割れ目が発達し、大半の割れ目沿いが細片化、細粒化し、やや軟質となる。岩芯の一部はやや硬質(硬さC)である。</p> <p>(コアの硬さ欄)Bランク</p>	141.71	142.00	<p>141.71~142.00m:傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片化~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質である。</p> <p>(コアの硬さ欄)Bランク</p>	-
607	142.00	149.30	142.00	149.30	(コアの硬さ欄)Bランク	(コアの硬さ欄)Bランク	142.00	149.30	(コアの硬さ欄)Bランク	-
608	142.00	142.30	-	-	<p>上位に比べて割れ目沿いの岩壁の変化は軽微であるが、割れ目沿いに細片化する。</p>	-	142.00	142.48	<p>142.00~142.48m:上下位に比べて割れ目沿いの岩壁の変化は軽微であるが、割れ目沿いに細片化する。</p>	記事内容がほぼ同じであるため、142.30~142.48mの記事を含めて記載した
609	142.30	142.48	-	-	<p>上下位に比べ岩壁の変化は軽微となる。割れ目沿いに細片化する。</p>	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
610	142.48	143.53	142.48	143.53	<p>岩壁が劣化し、割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集し、全ての割れ目が細片化、細粒化する。粘土状態は挟まない。</p>	<p>岩壁が劣化し、割れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集し、全ての割れ目が細片化、細粒化する。粘土状態は挟まない。</p>	142.48	143.53	<p>142.48~143.53m:割れ目沿いが細片化~細粒化し、特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集する。粘土状態は挟まない。</p>	-
611	143.53	145.46	-	-	<p>上位に比べて岩壁の劣化は軽微であり、割れ目傾度は小となる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。割れ目は傾斜20°~30°のものが優勢である。</p>	-	143.53	145.46	<p>143.53~145.46m:上位に比べて劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。</p>	-
612	143.53	145.46	143.53	145.46	(岩壁区分欄)CM	(岩壁区分欄)CM	143.53	145.46	(岩壁区分欄)CM	-
613	145.46	146.17	145.46	146.17	<p>上位に比べて割れ目傾度が大きくなり、割れ目沿いの細片化がみられる。微細な割れ目もみられるが、連続性に乏しい。</p>	<p>微細な割れ目が見られる深度を追記した 表現の適正化(見る)</p> <p>145.70~145.90mなど、微細な割れ目も見られるが、連続性に乏しい。</p>	145.46	146.17	<p>145.46~146.17m:上位に比べて割れ目が多くなり、割れ目沿いの細片化が見られる。145.70~145.90m間には微細な割れ目も見られるが、連続性に乏しい。</p>	-
614	146.17	146.71	146.17	146.71	<p>上位に比べて割れ目沿いの岩壁の変化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化がみられる。割れ目傾度は小となる。</p> <p>(岩壁区分欄)CL</p>	<p>傾記の修正(傾度⇒傾度) 表現の適正化(見る)</p> <p>上位に比べて割れ目沿いの岩壁の変化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化が見られる。割れ目傾度は小となる。</p>	146.17	146.71	<p>146.17~146.71m:上位に比べて割れ目が少なくなり、割れ目沿いの劣化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化が見られる。</p> <p>(岩壁区分欄)CM</p>	-
615	146.17	146.71	146.17	146.71	(岩壁区分欄)CL	(岩壁区分欄)CM	146.17	146.71	(岩壁区分欄)CM	-
616	146.71	147.13	-	-	<p>上位に比べ割れ目傾度が大きくなり、微細な割れ目が亀甲状を呈す。</p>	-	146.71	147.13	<p>146.71~147.13m:上位に比べて割れ目が多く、微細な割れ目が亀甲状を呈す。</p>	-

H24-B14-2 146.90~149.85m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を水書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
617	146.90	146.90	146.90m付近、割れ目沿いに変質を受け、割れ目周縁が9mm3cmにわたり、暗緑色を呈する。	-	-	-		146.90	146.90	146.90m、割れ目沿いに変質し、割れ目周縁幅3cmが暗緑色を呈する。	-
618	147.13	147.13	割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を帯びる。下盤側(147.20m付近まで)は脱色し、軟質(硬さD)となる。	147.13	147.13	割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を帯びる。下盤側(147.20m付近まで)は脱色し、軟質(硬さD)となる。この間、微細な割れ目が発達する。	・下盤側が必ずしも下盤とは限らないため下盤に変更した。 ・発達した割れ目について追記した	147.13	147.13	147.13m、割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を呈する。下盤側(147.20m付近まで)が脱色し、硬さ「D」に軟質化する。この間、微細な割れ目が発達する。	-
619	147.13	149.30	赤色を帯びる。傾斜50°~70°の割れ目が優勢であり、微細な割れ目が発達し、亀甲状をなす。割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。	-	-	-		147.13	149.30	147.13~149.30m、赤色を帯びる。傾斜50°~70°の割れ目が卓越し、微細な割れ目が発達し、亀甲状を呈する。割れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。	-
620	149.30	149.62	(コアの硬さ欄)Dランク	149.30	149.63	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した。 ・コアに合わせて下端深度を変更した	149.30	149.63	(コアの硬さ欄)Cランク	-
621	149.30	149.63	割れ目沿いの細片化、細粒化がみられ、一部硬質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。	149.30	149.63	割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。	・コアに合わせて硬軟を変更した。 ・表現の適正化(見る)	149.30	149.63	149.30~149.63m、割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部が残存するが、上下位に比べて軟質である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
622	149.62	150.00	経微な変質作用を受け、緑色を帯びる。上位に比べて岩自体は硬質である。微細な割れ目がみられる。	149.63	150.00	経微な変質作用を受け、緑色を帯びる。上位に比べて岩自体は硬質である。微細な割れ目が見られる。	・誤記の修正(149.62⇒149.63) ・表現の適正化(見る)	149.63	150.00	149.63~150.00m、経微な変質を受け、緑色を帯びる。上位に比べて硬質である。微細な割れ目が見られる。	-
623	149.63	150.00	(コアの硬さ欄)Cランク	149.63	150.00	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	149.63	150.00	(コアの硬さ欄)Bランク	-
624	149.80	149.85	変質作用による岩盤劣化部。幅40mm、上下盤とも傾斜40°をなし、上下盤の硬岩部と明確に境される。暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質(硬さD)となる。	149.80	149.85	変質作用による岩盤劣化部。幅40mm、上下盤とも傾斜40°をなし、上下盤の硬岩部と明確に境される。暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質(硬さD)となる。	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。下盤も同様。 ・表現の統一(堅岩⇒硬岩)	149.80	149.85	149.80~149.85m、傾斜40°、幅40mmで変質し、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質で硬さ「D」となる。周囲の硬岩部との境界は明瞭である。	-

H24-D1-3

H24-D1-3 0.00~7.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1	0	3.57	埋戻し土	0.00	9.84	埋戻し土	・表視の統一(埋戻し 0.00) ・人工堆積物を硬土として一括して下端深度を変更した	0.00	9.84	0.00~9.84m: 埋戻し	-
2	0.0	0.18	礫 φ5~20mm 黒色砂岩からなる	0.00	0.18	礫 φ5~20mm 黒色砂岩からなる	・表視の統一(0.00) ・砂石を岩種名に変更した	0.00	0.18	0.00~0.18m: 礫 径5~20mmの黒色砂岩からなる。	-
3	0.18	3.57	練泥り粗砂 φ10~50mmのCa, Al 亜角礫を含む粗砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。φ3~10mmの砂石片も多く含む。	0.18	3.57	練泥り粗砂 φ10~50mmのCa, Al 亜角礫を含む粗砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。φ3~10mmの黒色砂岩片も多く含む。	・表視の適正化(混じり) ・砂石を黒色砂岩に変更した	0.18	3.57	0.18~3.57m: 練泥り粗砂 径10~50mmの花崗斑岩、アブライトの亜角礫を含む粗粒砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。径3~10mmの黒色砂岩も多く含む。	-
4	0.18	3.57	(地質名欄)練泥り粗砂(埋戻し土)	0.18	3.57	(地質名欄)練泥り粗砂(硬土)	・表視の適正化(混じり) ・表視の統一(硬土)	0.00	3.57	(地質名欄)硬土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
5	3.57	4.00	中砂 ほぼ均質。ルーズである。最下部3.96m以深では若干シルト分を混入する。	3.57	4.00	コア欠如(スライム) ほぼ均質な中砂。ルーズである。最下部3.96m以深では若干シルト分を混入する。	・スライムであるため「コア欠如(スライム)」を適正化した ・表視の適正化(ほぼ 混入する⇒含む) ・表記の修正(単位の記事漏れ)	3.57	4.00	3.57~4.00m: スライム ほぼ均質な中粒砂で、ルーズである。3.96m以深では若干シルト分を含む。	-
6	3.57	4.00	(地質名欄)中砂(改良土)	3.57	4.00	(地質名欄)コア欠如	・記事欄の変更に合わせて変更した	3.57	4.00	(地質名欄)コア欠如	-
7	4.00	4.49	礫・シルト混り中砂 φ2~5mm石英、長石粒、φ5~20mm Ca, Al 砂石片を含む。若干のシルト分を混入する。ルーズである。	4.00	4.49	礫・シルト混り中砂 φ2~5mm石英、長石粒、φ5~20mm Ca, Al 黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を混入する。ルーズである。4.00m, 4.15m, 4.30m付近に木片を含む。	・砂石を黒色砂岩に変更した ・木片は周囲と異なる状況であるため追記した ・表視の適正化(混じり、混入する⇒含む)	4.00	4.49	4.00~4.49m: 礫・シルト混り中砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~20mmの花崗斑岩、アブライト、黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を含む。ルーズである。4.00m, 4.15m, 4.30m付近に木片を含む。	-
8	4.00	4.49	(地質名欄)礫・シルト混り中砂(改良土)	4.00	4.49	(地質名欄)礫・シルト混り中砂(硬土)	・表視の適正化(混じり) ・人工堆積物の表記を硬土に統一した	4.00	6.00	(地質名欄)硬土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
9	4.49	6.00	練泥り粗砂 φ2~5mm石英、長石粒、φ5~80mm Ca, Al 亜角礫を含むルーズな粗砂。礫は殆んどが硬質。	4.49	6.00	練泥り粗砂 φ2~5mm石英、長石粒、φ5~100mm Ca, Al 亜角礫を含むルーズな粗砂。礫は殆んどが硬質。	・表視の適正化(混じり) ・当該区間の礫径の最大値に変更した	4.49	6.00	4.49~6.00m: 練泥り粗砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~100mmの花崗斑岩、黒雲母花崗岩、アブライトの亜角礫を含む。ルーズである。礫は殆んどが硬質。稀に黒色砂岩の礫も含む。	・当該区間に含まれる礫をまとめて書きした
10	4.49	6.00	(地質名欄)練泥り粗砂(改良土)	4.49	6.00	(地質名欄)練泥り粗砂(硬土)	・表視の適正化(混じり) ・人工堆積物の表記を硬土に統一した	-	-	-	・上記に含めて記載した
11	4.26	4.50	φ5~10mm 亜角礫を多く含む砂礫状。	4.26	4.50	φ5~10mm 亜角礫を多く含む砂礫状。	・上位の礫含有率と大差がないため削除した	-	-	-	-
12	-	-		4.49	4.65	4.49m, 4.65m付近に径70~100mmのGr, Gp 重角礫を含む。	・径の大きな礫は周囲と異なる状況であるため追記した	4.49	4.65	4.49m, 4.65m付近に径70~100mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の亜角礫を含む。	-
13	5.00	5.10	礫は孔壁からの落下コア	-	-			5.00	5.10	5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。	-
14	5.12	5.12	木片を含む	-	-			5.12	5.12	5.12m: 木片を含む。	-
15	5.30	5.30	付近に黒色の砂岩片を含む	5.25	5.25	付近に黒色の砂岩片を含む	・コアに合わせて黒色砂岩の深度を変更した ・砂石を黒色砂岩に変更した	5.25	5.25	5.25m付近に黒色の砂岩を含む。	-
16	5.70	5.70	φ3~4mm 黒色砂岩片数個が点在する。	5.70	5.70	φ3~4mm 黒色砂岩片数個が点在する。	・砂石を黒色砂岩に変更した	5.70	5.70	5.70m: 径3~4mmの黒色砂岩片数個が点在する。	-
17	6.00	6.39	中砂 殆んど粗砂が混入しやや不均質。ややルーズ	6.00	6.39	スライム 中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質。ややルーズ。	・スライムであるため「スライム」を適正化した ・表視の適正化(ほぼ、やや、混入する⇒含む)	6.00	6.39	6.00~6.39m: スライム 中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質でややルーズ。	-
18	6.00	6.39	(地質名欄)中砂(改良土)	6.00	6.39	(地質名欄)コア欠如	・記事欄の変更に合わせて変更した	6.00	6.39	(地質名欄)コア欠如	-
19	6.25	6.27	φ2~3mmの黒色砂岩片を含む	6.25	6.27	φ2~3mmの黒色砂岩片を含む	・砂石を黒色砂岩に変更した ・表視の適正化(やや)	6.25	6.27	6.25~6.27m: 径2~3mmの黒色砂岩片を含む。	-
20	6.39	7.40	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ5~120mmの硬質なCa 亜角礫~重角礫と、粗砂の高質からなり、締っている。礫含有率は30~40%	-	-			6.39	7.40	6.39~7.40m: 砂礫 礫は径2~5mmの石英粒、径5~120mmの硬質な花崗斑岩の亜角~重角礫からなり、礫率30~40%程度。基質は締まった粗砂からなる。	-
21	6.39	7.40	(地質名欄)砂礫(改良土)	6.39	7.40	(地質名欄)砂礫(硬土)	・人工堆積物の表記を硬土に統一した	6.39	7.40	(地質名欄)硬土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
22	7.00	7.00	φ30mm(コア長)のGr 半クサリ礫を含む	-	-			7.00	7.00	7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クサリ礫を含む。	-

H24-D1-3 7.20~10.77m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
23	7.20	7.25	壁は孔壁から落下したコアである。	-	-			7.20	7.25	7.20~7.25m:壁は孔壁から落下したコアである。	-
24	7.40	8.38	中砂 粒々に粗砂や硬質礫を含み不均質 全体がやルーズである。	7.40	7.75	スライム 中砂からなる。 所々、粗砂や硬質礫を含み不均質 全体がやルーズである。	・スライムであるため「スライム」を追記した。 ・表視の適正化(所々、やや)	7.40	7.75	7.40~7.75m:スライム 中砂からなる。所々、粗砂や硬質礫を含み不均質。全体がやルーズである。	-
25	7.40	7.75	(地質名欄)中砂	7.40	7.75	(地質名欄)コア欠如	・記事欄の変更に合わせて変更した	7.40	7.75	(地質名欄)コア欠如	-
26	-	-		7.75	8.38	雑混じり砂 φ2~10mmのGr、Ca礫を含む細~中砂からなる。	・該当区間の記載がなかったため追記した	7.75	8.38	7.75~8.38m:雑混じり砂 径2~10mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の礫を含む細~中砂からなる。	-
27	7.75	8.38	(地質名欄)中砂(改良土)	7.75	8.38	(地質名欄)盛土	・記事欄の変更に合わせて変更した	7.75	8.38	(地質名欄)盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
28	-	-		8.38	8.73	スライム 8.38~8.60m間は径10~20mmのCa硬質な垂角礫 主体で8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。 8.60~8.73m間は中砂からなる。	・スライムであるため「スライム」を追記した。 ・スライムの構成物を追記した	8.38	8.73	8.38~8.73m:スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmの花崗斑岩の硬質な垂角礫主体で、8.50m に径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。	-
29	8.38	8.60	礫 φ10~30mmのCa硬質な垂角礫主体で、一部に孔 壁からの落下礫も含む 8.5mにφ20mm黒色砂岩1つ含む	8.38	8.60	礫 φ10~30mmのCa硬質な垂角礫主体で、一部に孔 壁からの落下礫も含む 8.5mにφ20mm黒色砂岩1つ含む	・上記に言及して記載したため削除した	-	-		-
30	8.38	8.60	(地質名欄)砂(改良土)	8.38	8.73	(地質名欄)コア欠如	・記事欄の変更に合わせて変更した	8.38	8.73	(地質名欄)コア欠如	-
31	8.60	9.00	中砂 やや不均質である。上位部の8.60~8.73mにはスラ イムが混入する。8.60m以下は若干のシルトと小礫 が混入する。やルーズである。	8.73	9.00	中砂 やや不均質である。上位部の8.60~8.73mにはスラ イムが混入する。8.60m以下は若干のシルトと小礫 を含む。やルーズである。	・スライム区間と分けため上端深度を変更した ・表視の適正化(やや、混入する→含む) ・スライムの記載は上記に含めたため削除した ・シルトと小礫が混入するのは該当区間全体であるため深度の記載 は削除した ・コアに合わせて深度を変更した	8.73	9.00	8.73~9.00m:中砂 やや不均質である。若干のシルトと小礫を含む。やルーズである。	-
32	8.60	9.00	(地質名欄)中砂(改良土)	8.73	9.00	(地質名欄)中砂(盛土)	・記事欄の変更に合わせて変更した ・人工堆積物の表記を盛土に統一した	8.73	9.00	(地質名欄)盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
33	9.00	9.65	中砂(多量のモルタルと落下礫、モルタル片含む) 多量のスライムと孔壁から落下したCa硬質礫を多 く含む	9.00	9.75	スライム 中砂からなる。9.66~9.75mにはCa礫を含む。 多量のスライムと孔壁から落下したCa硬質礫を多 く含む	・コアに合わせて下端深度を変更した。 ・スライムであるため「スライム」を追記した。 ・見出しにスライムと記載したため文中のスライムの記載は削除した。 ・落下部の礫について追記した ・表視の適正化(礫)	9.00	9.75	9.00~9.75m:スライム 中砂からなる。9.66~9.75mには花崗斑岩の礫を含む。	-
34	9.00	9.65	(地質名欄)中砂(改良土)	9.00	9.75	(地質名欄)コア欠如	・記事欄の変更に合わせて変更した	9.00	9.75	(地質名欄)コア欠如	-
35	9.35	9.35	付近にφ5~10mmのモルタル片多く含む	-	-			9.35	9.35	9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。	-
36	9.66	9.84	モルタル 砂岩状を呈する硬質モルタル。基盤岩と55°で接し ている。	9.75	9.84	モルタル 砂岩状を呈する硬質モルタル。基盤岩と55°で接し ている。	・コアに合わせて上端深度を変更した	9.75	9.84	9.75~9.84m:モルタル 砂岩状を呈する硬質モルタル。基盤岩と傾斜55°で接している。	-
37	9.66	9.84	(地質名欄)モルタル層(改良土) (色調欄)2.5GV5/1 オリーブ灰	9.75	9.84	(地質名欄)モルタル(盛土) (色調欄)2.5GV5/1 オリーブ灰	・記事欄の変更に合わせて上端深度を変更した。 ・人工堆積物の表記を盛土に統一した	9.75	9.84	(地質名欄)盛土 (色調欄)オリーブ灰	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
38	9.84	9.84	9.84mで着岩	-	-			-	-		・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はない
39	-	-	φ1~5mm石英、φ1~7mm長石斑晶からなる花崗 斑岩	9.84	60.00	花崗斑岩 φ1~5mm石英、φ1~7mm長石斑晶からなる花崗 斑岩	・地質名及び区間深度を追記した ・地質名を追記した	9.84	60.00	9.84~60.00m:花崗斑岩 斑晶は径1~5mmの石英、径1~7mmの長石からなる。	-
40	9.84	10.77	著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。岩組織は残 留している。φ10mm前後と大型の長石斑晶を多く 含む。粘土化部や粘土層は分布しない。消滅しか かった40~60°割れ目が残存することがある。	9.84	10.77	著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織 は残留している。φ10mm前後と大型の長石斑晶を 多く含む。粘土化部や粘土層は分布しない。消滅し かかった40~60°割れ目が残存することがある。	・表視の適正化(軟質化、残存、原岩組織)	9.84	10.77	9.84~10.77m:著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織は残留 する。径10mm前後の大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土層は 分布しない。消滅しかかった傾斜40~60°の割れ目が残存することがあ る。	-

H24-D1-3 10.47~13.94m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
41	10.47	10.50	スライム		10.47	10.50	スライム 隙間より砂質シルトからなる。	・スライムの構成物を追記した	10.47	10.50	10.47~10.50m:スライム 隙間より砂質シルトからなる。	
42	10.47	10.50	(地質名欄)Gp (割れ目状況欄)Gランク (コアの形状欄)Gランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)Gランク (変質欄)Gランク		10.47	10.50	(地質名欄)コア欠如 (割れ目状況欄)削除 (コアの形状欄)削除 (コアの硬さ欄)削除 (風化欄)削除 (変質欄)削除	・コア欠如区間であるため地質名欄に「コア欠如」を追記した ・その他の欄は削除した	10.47	10.50	(地質名欄)コア欠如 (割れ目状況欄)削除 (コアの形状欄)削除 (コアの硬さ欄)削除 (風化欄)削除 (変質欄)削除	
43	10.77	12.00	著しく軟化し、硬さEが主体であるが、割れ目は大半が残留している。また、岩組織も明瞭である。割れ目は40~60°とこれに斜交~直交する50~70°の2系の割れ目からなり、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分も含む。割れ目の一部はマンガン鉱染をうけ黒褐色化する。粘土層は殆んどはさまない		10.77	12.00	著しく軟化し、硬さEが主体であるが、割れ目は大半が残留している。また、岩組織も明瞭である。割れ目は40~60°とこれに斜交~直交する50~70°の2系統の割れ目からなり、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分も含む。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土層は殆んどはさまない	・表視の適正化(軟質化、原岩組織、系⇒系統、受け、挟む)	10.77	12.00	10.77~12.00m:著しく軟質化するが、割れ目の大半は残留する。また、原岩組織も明瞭である。割れ目は傾斜40~60°と、これと斜交~直交する50~70°の2系統が見られ、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土層は殆んどはさまない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
44	11.90	11.90	45°の消滅しかかった割れ目そいに断片的に灰緑化する(緑泥石化と推定される。)		11.90	11.90	45°の消滅しかかった割れ目沿いに断片的に灰緑化する(緑泥石化と推定される。)	・コアに合わせて色調を変更した ・表視の適正化(沿い)	11.90	11.90	11.90m:傾斜45°の消滅しかかった割れ目沿いに断片的に緑泥石化により緑灰色化する。	
45	12.00	12.13	スライム		12.00	12.13	スライム シルト質砂からなる。	・スライムの構成物を追記した	12.00	12.13	12.00~12.13m:スライム シルト質砂からなる。	
46	12.00	12.13	(地質名欄)スライム (岩級区分欄)D		12.00	12.13	(地質名欄)コア欠如 (岩級区分欄)空欄	・記事欄に合わせて変更した	12.00	12.13	(地質名欄)コア欠如 (岩級区分欄)空欄	
47	12.13	13.03	岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟化する。30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目沿いは砂状化する。一部はマンガン鉱染をうけ黒褐色化する。粘土層は殆んどはさまないが、12.13~12.17mは幅1~3mmの淡緑色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に厚さ1mm前後の粘土層がはさまれる。いずれも軟質な粘土である。		12.13	13.03	岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟化する。30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目沿いは砂状化する。一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土層は殆んどはさまないが、12.13~12.17mは幅1~3mmの淡緑色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に厚さ1mm前後の粘土層がはさまれる。いずれも軟質な粘土である。	・コアに合わせて色調を変更した ・表視の適正化(原岩組織、軟質化、沿い、挟む、受け、軟弱⇒軟質)	12.13	13.03	12.13~13.03m:原岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟化する。傾斜30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目沿いは砂状化する。一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土層は殆んどはさまないが、12.13~12.17mは幅1~3mmの淡緑色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に幅1mm前後の粘土層を挟む。いずれも軟質な粘土である。	
48	12.57	12.61	上端45°、下端35°で灰緑色(緑泥石化)する。中央部に幅1~2mmの軟弱な淡灰緑色粘土を伴う。		12.57	12.61	上端45°、下端35°で緑灰色(緑泥石化)する。中央部に幅1~2mmの軟弱な淡灰緑色粘土を伴う。	・コアに合わせて色調を変更した ・表視の適正化(軟弱⇒軟質)	12.57	12.61	12.57~12.61m:上端45°、下端35°で緑泥石化により緑灰色を呈する。中央部に幅1~2mmの軟弱な淡灰緑色粘土を伴う。	
49	13.03	13.32	硬さ(C)と硬質で割れ目はマンガン鉱染をうける		13.03	13.32	硬さ(C)とやや硬質で割れ目はマンガン鉱染をうける	・コアに合わせて硬軟を変更した ・表視の適正化(受ける)	13.03	13.32	13.03~13.32m:やや硬質で割れ目はマンガン鉱染を受ける。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
50	13.32	13.47	風化で砂状化している。		-	-	-		13.32	13.47	13.32~13.47m:風化で砂状化している。	
51	13.47	13.94	50°割れ目が平行に複数分布する。岩片は硬さDとやや軟化するが、砂状化や粘土挟はない。一部でマンガン鉱染をうけ黒褐色化する。		13.47	13.94	50°割れ目が平行に複数分布する。岩片は硬さDとやや軟化するが、砂状化や粘土挟はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	・表視の適正化(やや、軟質化、受け)	13.47	13.94	13.47~13.94m:傾斜50°の割れ目が平行に複数分布する。岩片はやや軟質化するが、砂状化や粘土の挟はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-3 13.94~14.41m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
52	13.94	14.06	破砕帯(H-3a破砕帯)	13.94	14.06	破砕帯(H-3a破砕帯)	・用紙の統一(破砕帯→破砕部) ・破砕帯名は評価であるため削除した			
53	13.94	13.98	H 上端60°、下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。粘土混じり岩片状で、浅黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20~30mm。	13.94	13.98	H 上端60°、下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。粘土混じり岩片状を呈し、浅黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20~30mm。硬質で、細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(混じり)			
54	13.98	14.00	Hc-1 上端55°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1mm前後の石英粒を含む軟弱な浅黄色粘土で厚さ10mm。	13.98	14.00	Hc-1 上端55°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1mm前後の石英粒を含む軟弱な浅黄色粘土からなる。厚さ10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)			
55	14.00	14.06	Hb(主せん断面 14.06m) 上端60°、下端60°で、両者とも直線的でシャープ、下端は波打って連続。φ1mm石英粒とφ5mm前後のGo岩片を多く含む硬質粘土で軟弱、明オリーブ灰(2.5GY 7/1)を呈し、厚さ20mm。	14.00	14.03	Hb(主せん断面 14.06m) 上端60°、下端55°で、上端は直線的でシャープ、下端は凹凸している。φ1mm石英粒とφ5mm前後のGo岩片を多く含む粘土混じり岩片状で硬質、浅黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・Hbを硬主体の部分と粘土主体の部分に分けて記載した ・14.00~14.03m間は硬主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・コアに合わせて下端深度の傾斜を変更した ・当該区間ではないため主せん断面は削除した ・幅、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した	13.94	14.06	●13.94~14.06m:破砕部 13.94~13.98m:粘土混じり岩片状部(H) 上端60°、下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。浅黄色を呈する。幅20~30mm。 13.98~14.00m:粘土状部(Hc-1) 上端55°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1mm前後の石英粒を含む。軟質、浅黄色を呈する。幅10mm。 14.00~14.03m:粘土混じり岩片状部(H) 上端60°で直線的にシャープに連続。下端55°で凹凸している。径1mmの石英粒と径5mm前後の花崗閃岩の岩片を多く含む。硬質、浅黄色を呈する。幅20mm。 14.03~14.06m:粘土状部(Hc-1) 上端55°、下端60°で直線的に連続。軟質、浅黄色を呈する。幅10~15mm。
56	14.03	14.06	Hc-1 最新活動面14.06m 上端55°、下端60°で、上端は凹凸あり、下端は直線的に連続。軟質な粘土。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。浅黄色を呈する。幅10~15mm。	14.03	14.06	Hc-1 最新活動面14.06m 上端55°、下端60°で、上端は凹凸あり、下端は直線的に連続。軟質な粘土。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。浅黄色を呈する。幅10~15mm。	・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の深度を追記した ・14.03~14.06m間は粘土主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・コアに合わせて上端深度の傾斜を変更した ・コアに合わせて下端の直線性を変更した(既性のコア観察では削って14.06~14.08mの緑色変質部の下端の直線性を認識した) ・幅、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した			
57	14.00	14.06	(破砕度区分)Hb	14.00	14.03	(破砕度区分)Hb	・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した	14.00	14.03	(破砕度区分)Hb
58	14.03	14.06	(破砕度区分)Hc-1	14.03	14.06	(破砕度区分)Hc-1	・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した	14.03	14.06	(破砕度区分)Hc-1
59	14.06	14.41	原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅している。残存する14.30m~60°割れ目をはじめ、岩片間を縫うように幅1~2mmの軟弱な白色~明黄褐色(10YR 7/6)の粘土が分布する。	14.06	14.41	原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅している。残存する14.30m~60°割れ目をはじめ、岩片間を縫うように幅1~2mmの軟弱な白色~明黄褐色(10YR 7/6)の粘土が分布する。	・表現の適正化(原岩組織、軟弱⇒軟質)	14.06	14.41	14.06~14.41m:原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅する。残存する14.30mの傾斜60°の割れ目のほか、岩片間を縫うように幅1~2mmの軟弱な白~明黄褐色粘土が分布する。

H24-D1-3 14.41~22.30m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
60	14.41	14.52	破砕帯(H-4'破砕帯)	14.41	14.52	破砕帯(H-4'破砕帯)		
61	14.41	14.47	H 上端40°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。大半が粘土化した粘土岩片状を呈する。色調は灰白色(5YR 8/2)~にふい(5YR 7/4)で、厚さ20~30mm。	14.41	14.47	H 上端40°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。大半が粘土化した粘土岩片状を呈する。色調は灰白色(5YR 8/2)~にふい(5YR 7/4)で、厚さ20~30mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		
62	14.47	14.48	Hc-2(主せん断面・14.47m) 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ1~2mmの石英粒、φ2~3mmや長さ5~10mm幅2~3mmの扁平Op礫を含む灰白色(5Y 7/2)の軟質凝り粘土。厚さ15~18mm	14.47	14.48	Hc-2(最新活動面・14.47m) 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ1~2mmの石英粒、φ2~3mmや長さ5~10mm幅2~3mmの扁平Op礫を含む灰白色(5Y 7/2)の軟質凝り粘土。厚さ15~18mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	14.41	14.52
63	14.48	14.52	H 上端60°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。約60°の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白色(5Y 7/2)粘土層をはさむ風化岩片で、粘土混り岩片状を呈する。全体の色調は明黄褐色(10YR 7/6)で、厚さは20mm。	14.48	14.52	H 上端60°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。約60°の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白色(5Y 7/2)粘土層を挟む風化岩片で、粘土混り岩片状を呈する。全体の色調は明黄褐色(10YR 7/6)を呈する。厚さは20mm。 含まれる細粒部の連続性・直線性は乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		
64	14.52	22.47	比較的割れ目が少ないコア形状からなる。区間中央部の16.48~20.08mと最下部の21.75~22.47mは一部硬さを混入する硬さで、風化は弱い。これを除く14.52~16.48mと20.08~21.75mはやや風化が進み、硬さ(D)と軟化する。全区間で粘土化や粘土層の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は10~40°と緩斜のもの为主体で部分的に、これら緩斜割れ目に60~80°割れ目~低密着割れ目が交差している。	14.52	22.47	比較的割れ目が少ないコア形状からなる。区間中央部の16.48~20.08mと最下部の21.75~22.47mは一部硬さを混入する硬さで、風化は弱い。これを除く14.52~16.48mと20.08~21.75mはやや風化が進み、硬さ(D)と軟化する。全区間で粘土化や粘土層の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は10~40°と緩斜のもの为主体で部分的に、これら緩斜割れ目に60~80°割れ目~低密着割れ目が交差している。	14.52	22.47
65	16.17	16.28	割れ目沿いに風化・砂状化が進み、φ10~30mmの塊状コアに砕けている。	16.17	16.28	割れ目沿いに風化・砂状化が進み、φ10~30mmの塊状コアを呈する。	16.17	16.28
66	16.48	16.48	58°割れ目に厚さ2~4mmの軟質な灰白色粘土層をはさむ。	16.48	16.48	58°割れ目に厚さ2~4mmの軟質な灰白色粘土層を挟む。	16.48	16.48
67	16.48	17.68	間には硬さ「B」の硬質岩片も多く含む。割れ目は直線的でシャープなものも多く、風化砂や変質粘土層などの挟入物も分布しない。	16.48	17.68	間には硬さ「B」の硬質岩片も多く含む。割れ目は直線的でシャープなものも多く、風化砂や変質粘土層などの挟入物も分布しない。	16.48	17.68
68	16.48	17.68	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	16.48	17.68	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	16.48	17.68
69	18.05	21.00	割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。	18.05	21.00	割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。	18.05	21.00
70	19.10	19.22	割れ目沿いに薄く砂状化する。	19.10	19.22	割れ目沿いに薄く砂状化する。	19.10	19.22
71	20.77	20.77	50°割れ目に幅1~2mmの明黄褐色(10YR 7/6)の軟質粘土層を挟む。粘土層の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.77	20.77	50°割れ目に幅1~2mmの明黄褐色(10YR 7/6)の軟質粘土層を挟む。粘土層の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.77	20.77
72	21.00	22.30	40~60°割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土層の挟入はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。	21.00	22.30	40~60°割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土層の挟入はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。	21.00	22.30

H24-D1-3 21.18~28.43m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
73	21.18	21.18	21.18m・60°、21.61m・48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は直交する55°割れ目で切られ、直立している(変位先はコア中には存在しない)	21.18m・60°、21.61m・48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は直交する55°割れ目で止まっている。50~60°変位している(変位先はコア中には存在しない)	21.18	21.18	21.18m・60°、21.61m・48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は直交する55°割れ目で止まっている。以上から、「割れ目で切られ、直立している」は削除し、「割れ目で止まっている」に変更した	21.18m・60°、21.61m・48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、後者の石英脈は直交する傾斜55°の割れ目で止まっている。	
74	21.75	22.47	(岩級区分欄)OM	(岩級区分欄)DL	21.75	22.47	・階級の修正(CM⇒DL)	(岩級区分欄)DL	
75	22.28	22.28	58°割れ目周辺1cmは淡緑灰色化(緑泥石化)、φ1mmの白雲母を伴う。	58°割れ目周辺1cmは淡緑灰色化(緑泥石化)、φ1mmの白雲母を伴う。	22.28	22.28	・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母)	22.28m・傾斜58°の割れ目周辺1cmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径1mmの白雲母を伴う。	
76	22.47	22.77	(岩級区分欄)CM	(岩級区分欄)CH	22.47	22.77	・区間長が50cm未満のため、下位の岩級に含めた	(岩級区分欄)CH	
77	22.47	23.77	割れ目は少なくなり、コア形状も主体で、22.47~22.77mと23.60~23.77mは硬さ「C」、これ以外は硬さ「B」と硬質部が主体である。50~60°割れ目が主体で、硬さ「C」区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬さ「B」では砂状化しない硬質割れ目である。割れ目は粘土脈ははさまない。	割れ目は少なくなり、コア形状も主体で、22.47~22.77mと23.60~23.77mは硬さ「C」、これ以外は硬さ「B」と硬質部が主体である。50~60°割れ目が主体で、硬さ「C」区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬さ「B」では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈ははさまない。	22.47	23.77	・階級の修正(割れ目) ・文章の適正化(硬質割れ目は意味が不明であるため削除して、砂状化は見られない)に変更した ・表現の適正化(狭む)	22.47~23.77m:割れ目は少なくなり、やや硬質~硬質部からなる。傾斜50~60°の割れ目が主体で、やや硬質の区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬質の区間では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈は挟まない。	
78	22.77	22.77	55°割れ目は交差する割れ目を切っている。	55°割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細いマンガン汚染の筋が横断している。切っただけで、割れ目に細粒部が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	22.77	22.77	・55°の割れ目を横断する細いマンガン汚染の筋が見られるため「切っただけで」を止めている」に変更した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断した	22.77m・傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細いマンガン汚染の筋が横断する。割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
79	22.78	23.40	φ2~3mmの黒雲母斑晶が目立つ。		-	-		22.78~23.40m:径2~3mmの黒雲母の斑晶が目立つ。	
80	23.60	25.00	(割れ目状態欄)記載なし	(割れ目状態欄)ランク	23.60	25.00	・記載漏れのためコアに合わせて追記した	(割れ目状態欄)ランク	
81	23.77	24.94	互いに斜交~直交する50°前後の割れ目が主体である。風化で割れ目の一部は薄く砂状化することがある。粘土化部や粘土脈は分布しない。		-	-		23.77~24.94m:互いに斜交~直交する傾斜50°前後の割れ目が主体である。風化で割れ目の一部は薄く砂状化することがある。粘土化部や粘土脈は分布しない。	
82	24.94	25.29	上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目ごとに薄く砂状化することが多い。	上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目ごとに薄く砂状化することが多い。	24.94	25.29	・表現の適正化(扱い)	24.94~25.29m:上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目ごとに薄く砂状化することが多い。	
83	25.29	26.97	50~70°割れ目を主体とし、一部でこれらに斜交~直交する50~60°割れ目が分布する。上位に比べ、風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、粘土脈は幅1~5mmの軟弱な粘土ないし粘土脈が割れ目に数箇所はさまれるが分布は少ない。	50~70°割れ目を主体とし、一部でこれらに斜交~直交する50~60°割れ目が分布する。上位に比べ、風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、粘土脈は幅1~5mmの軟弱な粘土ないし粘土脈が割れ目に数箇所はさまれるが分布は少ない。	25.29	26.97	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、箇所、狭む) ・文章の適正化(粘土脈の削除(タブで記載している))	25.29~26.97m:傾斜50~70°の割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~60°の割れ目が見られる。上位に比べ風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、軟弱な割れ目に幅1~5mmの軟質粘土脈を挟む。	
84	25.94	25.94	20°割れ目ごとに幅20mmはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20°割れ目ごとに幅20mmはマンガン鉱染で黒褐色化する。	25.94	25.94	・表現の適正化(扱い)	25.94m:傾斜20°で幅20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。	
85	26.14	26.14	58°割れ目の一部に幅1~5mmの軟弱な灰白色粘土が分布。割れ目ごとに全体はマンガン鉱染で黒褐色化する。	58°割れ目の一部に幅1~5mmの軟弱な灰白色粘土が分布。割れ目ごとに全体はマンガン鉱染で黒褐色化する。	26.14	26.14	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、扱い)	26.14m:傾斜58°の割れ目の一部に幅1~5mmの軟弱な灰白色粘土が分布する。割れ目ごとに全体はマンガン鉱染で黒褐色化する。	
86	26.34	26.34	45°の低密着割れ目は幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土をはさまむ。	45°の低密着割れ目は幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土を挟む。	26.34	26.34	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、狭む)	26.34m:傾斜45°で幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土を挟む。	
87	26.72	-	26.72m以降は上位に比べ、硬くなる(硬さ「C」)		-	-		26.72m以降は上位に比べ、硬くなる(硬さ「C」)。	
88	26.97	27.26	上端45°、下端50°の割れ目に囲まれ、風化で全体が軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。		-	-		26.97~27.26m:上端45°、下端50°の割れ目間は風化で全体が軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	
89	27.26	28.43	最上位割の27.26~27.64mは硬さCで残留するが、27.64m以降は硬さBに軟化する。割れ目は残留し、40~60°が主体で同角の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目自体は薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。	最上位割の27.26~27.64mは硬さCで残留するが、27.64m以降は硬さBに軟化する。割れ目は残留し、40~60°が主体で同角の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目自体は薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。	27.26	28.43	・表現の適正化(軟質化、扱い、角⇒角度)	27.26~28.43m:27.64m以降はやや硬質であるが、それ以降は軟化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目自体は薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-3 27.70~33.30m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更していないものは「」で表示)		記事内容	記事内容		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
			コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>						
				追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>					
80	27.70	27.70	60° 割れ目サイズの幅5mmは粘土化するが、これは粘土化した長石濃集部である。	27.70	27.70	60° 割れ目サイズの幅5mmは粘土化するが、これは粘土化した長石濃集部である。	27.70	27.70	27.70m: 傾斜60° の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。
91	28.43	28.43	60° 割れ目は幅1~2mmの軟弱粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐色化し、粘土の色調は不明。	28.43	28.43	60° 割れ目は幅1~2mmの軟弱粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐色化し、粘土の色調は不明。	28.43	28.43	28.43m: 傾斜60° で幅1~2mmの軟弱な粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐色化し、粘土の色調は不明である。
92	28.43	29.31	風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様40~60° が主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50° 割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。	28.43	29.31	風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様40~60° が主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50° 割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。	28.43	29.31	28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60° のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50° の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。
93	28.57	28.72	28.57m~45°、29.72m~55° 割れ目は幅2~3mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。	28.57	28.72	28.57m~45°、29.72m~55° 割れ目は幅2~3mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。	28.57	28.72	28.57m~45°、29.72m~55° の割れ目は幅2~3mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。
94	29.31	29.95	上位と様子はほぼ同程度であるが割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。	29.31	29.95	上位と様子はほぼ同程度であるが割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。	29.31	29.95	29.31~29.95m: 上位と様子はほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。
95	29.95	33.30	上位側32.63m以浅の硬さ0と、下位側32.63m以深の硬さ0となり、両者とも風化により軟化~著しく軟化している。割れ目は32.63m以浅では残留しているが、32.63m以深では一部消滅し、一部残留している。割れ目は20~40° とこれらに斜交~直交する50~70° 割れ目と同角程度の低密着割れ目が主体である。32.63m以深では一部の割れ目沿いが薄く砂状化することが多い。32.63m以深では割れ目や周辺部まで砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	29.95	33.30	上位側32.63m以浅の硬さ0と、下位側32.63m以深の硬さ0となり、両者とも風化により軟化~著しく軟化している。割れ目は32.63m以浅では残留しているが、32.63m以深では一部消滅し、一部残留している。割れ目は20~40° とこれらに斜交~直交する50~70° 割れ目と同角程度の低密着割れ目が主体である。32.63m以深では一部の割れ目沿いが薄く砂状化することが多い。32.63m以深では割れ目や周辺部まで砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	29.95	33.30	29.95~33.30m: 全体に風化により軟化~著しく軟化する。32.63m以深では割れ目が残留し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以外では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40° とこれらに斜交~直交する50~70° の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。
96	30.24	30.24	60° 割れ目に褐色の硬質粘土脈。幅2mmで断片的には含む。	30.24	30.24	60° 割れ目に褐色の硬質粘土脈。幅2mmで断片的には含む。上端側約5mmにマンガン濃集部を伴う。	30.24	30.24	30.24m: 傾斜60° で幅2mmの褐色の硬質粘土脈を断片的に挟む。上端側幅5mmにマンガン濃集部を伴う。
97	30.74	30.74	80~85° で湾曲した割れ目と30.85m~55° 割れ目で囲まれた部分は周囲より風化が進み砂状化する。	-	-	-	30.74	30.74	30.74mの傾斜80~85° で湾曲した割れ目と30.85mの傾斜55° の割れ目で囲まれた部分は周囲より風化が進み砂状化する。
98	30.85	30.85	55° 割れ目は風化でにぶい黄褐色の幅1~2mmの軟弱粘土脈を挟む。	30.85	30.85	55° 割れ目は風化でにぶい黄褐色の幅1~2mmの軟弱粘土脈を挟む。	30.85	30.85	30.85m: 傾斜55° の割れ目は風化でにぶい黄褐色の幅1~2mmの軟弱粘土脈を挟む。
99	32.30	32.30	60° はせん断性割れ目で、交差する30° 割れ目を切っている(変位量10mm、左支)。割れ目は幅1mmのにぶい黄褐色の軟弱粘土脈を挟む。	32.30	32.30	60° はせん断性割れ目で、交差する30° 割れ目を切っている。切っ先は変位量10mm、左支。割れ目は幅1mmのにぶい黄褐色の軟弱粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	32.30	32.30	32.30m: 傾斜60° の割れ目は幅1mmのにぶい黄褐色の軟弱粘土脈を挟み、交差する傾斜30° の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
100	32.63	32.63	55° はせん断性割れ目で、直交する45° 割れ目を切っている(変位量10mm、左支)。割れ目は幅1~2mmの褐色軟弱粘土脈を挟むが、不連続である。	32.63	32.63	55° はせん断性割れ目で、直交する45° 割れ目を切っている。切っ先は変位量10mm、左支。割れ目は幅1~2mmの褐色軟弱粘土脈を挟むが、不連続である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	32.63	32.63	32.63m: 傾斜55° の割れ目は幅1~2mmの褐色の軟弱粘土脈を挟むが、不連続である。これと直交する傾斜45° の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。
101	32.63	-	32.63m以深は33.30mまで割れ目は残留するが、以深はほぼ消滅するが、割れ目の一部が残留するのみである。	32.63	33.00	32.63m~33.00m 割れ目は残留するが、以深はほぼ消滅するが、割れ目の一部が残留するのみである。	32.63	33.30	32.63~33.30m: 割れ目は残留する。
102	33.00	33.30	割れ目、低密着割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	-	33.00	33.30	33.00~33.30m: 割れ目、低密着割れ目に沿ってマンガン鉱染で黒褐色化する。

H24-D1-3 33.30~35.81m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度		選定した記事内容
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
103	33.30	34.23	岩組織の割れ目はほぼ消滅している。全体に40°~50°、幅1~8mmで軟質なぶい黄褐色(10YR 7/4)の粘土脈が分布する。	33.30	34.23	岩組織の割れ目はほぼ消滅している。全体に40°~50°、幅1~8mmで軟質なぶい黄褐色(10YR 7/4)の粘土脈が分布する。	33.30	34.23	33.30~34.23m: 原岩組織と割れ目はほぼ消滅する。全体に傾斜40~50°で幅1~8mmの軟質なぶい黄褐色粘土脈が分布する。
104	33.40	33.23	40~50°の割れ目の一部、低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟質なぶい黄褐色(10YR 7/4)の粘土脈を挟むことが多い。	33.40	34.23	40~50°の割れ目の一部、低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟質なぶい黄褐色(10YR 7/4)の粘土脈を挟むことが多い。	33.40	34.23	33.40~34.23m: 傾斜40~50°の割れ目及び低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟質なぶい黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。
105	33.91	33.91	32°幅2~8mmでφ1~2mm石英粒、φ5mmの風化~粘土化した岩片を含むやわやわ硬質な灰黄色粘土脈が分布する。	33.91	33.91	32°幅2~8mmでφ1~2mm石英粒、φ5mmの風化~粘土化した岩片を含むやわや硬質な灰黄色粘土脈が分布する。	33.91	33.91	33.91m: 傾斜32°で幅2~8mmの径1~2mmの石英粒や径5mmの風化~粘土化した岩片を含むやわや硬質な灰黄色粘土脈が分布する。
106	34.17	34.23	マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	-	-	34.17	34.23	34.17~34.23m: マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。
107	34.23	34.52	破砕帯(D-1破砕帯)	34.23	34.52	破砕帯(D-1破砕帯)			●34.23~34.52m: 破砕帯 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端50°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片と岩片間を幅1~2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄~灰黄褐色を呈する。 また、34.30mには30°幅1~2mmの軟質粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39~34.40m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さは160mm(コア長)である。
108	34.23	34.39	Hj 上端50°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さは160mm(コア長)である。	34.23	34.39	Hj 上端50°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは160mm(コア長)である。 また、34.30mには30°幅1~2mmのやわや軟質な灰黄色粘土脈を伴うせん断面があるが、粘土の連続性及び直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	34.23	34.39	●34.23~34.52m: 破砕帯 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端50°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片と岩片間を幅1~2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄~灰黄褐色を呈する。 また、34.30mには30°幅1~2mmの軟質粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39~34.40m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは160mm(コア長)である。
109	34.39	34.40	Hc-1(主せん断面:34.39m) 55°で直線的でシャープに連続する軟質な白色~灰黄色粘土脈でφ1mmの石英粒を含む。厚さは5~7mmである。	34.39	34.40	Hc-1(最新活動面 34.40m) 55°で直線的でシャープに連続する軟質な白色~灰黄色粘土脈でφ1mmの石英粒を含む。厚さは5~7mmである。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	34.39	34.40	●34.23~34.52m: 破砕帯 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端50°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片と岩片間を幅1~2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄~灰黄褐色を呈する。 また、34.30mには30°幅1~2mmの軟質粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39~34.40m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは160mm(コア長)である。
110	34.40	34.52	Hj 上端55°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さは130mm(コア長)である。	34.40	34.52	Hj 上端55°, 下端55°で両者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは130mm(コア長)である。	34.40	34.52	●34.23~34.52m: 破砕帯 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端50°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片と岩片間を幅1~2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄~灰黄褐色を呈する。 また、34.30mには30°幅1~2mmの軟質粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39~34.40m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が認められる。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が局所的に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは160mm(コア長)である。
111	34.52	35.81	30~60°の割れ目、低密着割れ目が多い。このうち35.14~35.27mでは40°前後の割れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化している。上記各割れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟むことが多い。	34.52	35.81	30~60°の割れ目、低密着割れ目が多い。このうち35.14~35.27mでは40°前後の割れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化している。上記各割れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟むことが多い。	34.52	35.81	34.52~35.81m: 傾斜30~60°の割れ目、低密着割れ目が多い。35.14~35.27mでは傾斜40°前後の割れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。各割れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟むことが多い。
112	-	-	-	34.60	34.60	60°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	34.60	34.60	34.60m: 傾斜60°で幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。
113	-	-	-	34.80	34.95	マンガン、灰白色粘土が網目状に分布する。	34.80	34.95	34.80~34.95m: マンガンや灰白色粘土が網目状に分布する。
114	35.71	35.81	(変質帯)2ランク	35.71	35.81	(変質帯)3ランク	35.71	35.81	(変質帯)3ランク

H24-D1-3 35.81~41.57m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
115	35.81	36.53	一部、硬質部も含み、全体が硬質である。40~60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈はほとんど見えない。	一部、硬質部も含み、全体がやや硬質である。40~60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈はほとんど見えない。	・コアに合わせて色調を変更した。 ・表現の適正化(挟む) ・文章の適正化(硬さ目)⇒硬質部(やや硬質に対する用語に変更)	35.81	36.53	35.81~36.53m:一部、硬質部も含み、全体がやや硬質である。傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈はほとんど見えない。
116	36.53	36.82	60~70°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布しクラッキーとなる。	60~70°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し岩片状を呈する。	・表現の適正化(クラッキー⇒岩片状)	36.53	36.82	36.53~36.82m:傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、コアは岩片状となる。
117	36.67	36.67	50°の割れ目、上盤側5~10mmは炭酸鉄色化(緑泥石化)、粘土は伴わない。φ0.5mm以下の微小な雲母あるいは金属鉱物が晶出している。	50°の割れ目、上盤側5~10mmは炭酸鉄色化(緑泥石化)、粘土は伴わない。φ0.5mm以下の微小な白雲母あるいは金属鉱物が晶出している。	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。 ・コアに合わせて色調を変更した。 ・鉱物名を適正化した(黄母⇒白雲母) ・表現の適正化(伴う)	36.67	36.67	36.67m:傾斜50°の割れ目の上盤側は幅5~10mmで炭酸鉄色化により淡緑灰色化するが、粘土は伴わない。径0.5mm以下の微細な白雲母や金属鉱物が晶出する。
118	36.82	44.01	40~60°の割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交⇒直交する60~80°の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。硬さは概ね硬く、一部で硬さBを伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質な白〜風化・明黄褐色(10YR 6/6)を伴うが、分布は少ない。	40~60°の割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交⇒直交する60~80°の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質な白〜風化・明黄褐色(10YR 6/6)を伴うが、分布は少ない。	・表現の適正化(沿い、軟質化、伴う、軟弱⇒軟質) ・表現の統一(固結⇒硬質) ・文章の適正化(硬さは概ね⇒全体にやや硬質、硬さ⇒硬質部) ・鉱物名を適正化した(黄母⇒白雲母)	36.82	44.01	36.82~44.01m:傾斜40~60°の割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交⇒直交する60~80°の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質な白〜風化して明黄褐色粘土を伴うが、分布は少ない。
119	37.69	37.69	80°はせん断性割れ目で、37.77m付近で幅1mm、45°の石英脈を切っている(変位量3mm)を伴う。割れ目には幅1mm以下の固結、風化した黄褐色粘土を伴う。	80°はせん断性割れ目で、37.77m付近で幅1mm、45°の石英脈を止めている。幅0.5mmの変位量3mmを伴う。割れ目には幅1mm以下の固結、風化した不連続な黄褐色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤は褐色化しているが、原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・左向きを示す石英脈が見られないため変位量の記載を削除し、「止めている」に変更した。 ・存在する粘土の連続性について追記し、「固結・風化した」は矛盾した表現であるため削除した。 ・割れ目及び割れ目周辺の状況について追記した。 ・追加した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。 ・表現の適正化(挟む)	37.69	37.69	37.69m:傾斜80°の割れ目は、37.77m付近で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目には幅1mm以下の不連続な黄褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤は褐色化しているが、原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
120	38.34	38.41	45°の割れ目が5~30mm間隔で平行に入りクラッキー。下端付近の38.38~38.41mでは40°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を伴う。粘土脈周辺数mmは炭酸鉄色化する。	45°の割れ目が5~30mm間隔で平行に入り岩片状化している。下端付近の38.38~38.41mでは40°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。粘土脈周辺数mmは炭酸鉄色化する。	・コアに合わせて色調を変更した。 ・深度の記載があるため「下端付近」「下盤側」を削除した。 ・表現の適正化(挟む、沿い、軟弱⇒軟質、クラッキー⇒岩片状) ・記載の修正(色)の記載消滅	38.34	38.41	38.34~38.41m:傾斜45°の割れ目が5~30mm間隔で平行に分布し岩片化する。38.38~38.41mでは傾斜40°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、粘土脈周辺数mmは炭酸鉄色化する。
121	38.41	38.72	40°の割れ目周辺が風化⇒褐色化する。	-	-	38.41	38.72	38.41~38.72m:傾斜40°の割れ目周辺が風化⇒褐色化する。
122	39.00	40.09	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。	39.00	40.09	(コアの形状欄)Vランク
123	39.53	39.53	40°の幅1~2mm石英脈が母岩に密着して連続	-	-	39.53	39.53	39.53m:傾斜40°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。
124	39.82	39.82	45°の割れ目に幅5mmの軟質な灰白色(7.5YR 8/2)粘土脈を伴う。	45°の割れ目に幅5mmの軟質な灰白色(7.5YR 8/2)粘土脈を挟む。周辺幅数mmは褐色化が顕著である。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	39.82	39.82	39.82m:傾斜45°で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。周辺幅数mmは褐色化が顕著である。
125	40.38	40.60	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。	40.38	40.60	(コアの形状欄)Vランク
126	40.87	44.01	40~50°の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目の面は薄く褐色化するのみで、砂状化は伴わない。また、一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を伴うが分布は少ない。	40~50°の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目の面は薄く褐色化するのみで、砂状化は伴わない。また、一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を挟むが分布は少ない。	・表現の適正化(ほぼ、伴う、軟弱⇒軟質、挟む)	40.87	44.01	40.87~44.01m:傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目の面は薄く褐色化するのみで砂状化は伴わない。一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を挟むが、分布は少ない。
127	40.61	40.61	45°の割れ目、下盤側の一部は幅5mmで炭酸鉄色化(緑泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。	45°の割れ目、下盤側の一部は幅5mmで炭酸鉄色化(緑泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。	・下盤側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。	40.61	40.61	40.61m:傾斜45°の割れ目の下盤側の一部は幅5mmで炭酸鉄色化し、幅2mmの石英脈を伴う。
128	40.92	40.95	40.92m・55°~40.95m・60°は一部砂状化し、幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を伴う。	40.92m・55°~40.95m・60°は一部砂状化し、幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	40.92	40.95	40.92m・55°~40.95m・60°は一部砂状化し、幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。
129	41.40	41.57	41.40m・45°、41.57m・50°は、いずれもほぼ直交する55°の割れ目を切っているが、変位量は不明。	41.40m・45°、41.57m・50°の割れ目は、いずれもほぼ直交する55°の割れ目を止めている。切っているが、変位量は不明⇒いずれの割れ目にも挟み物は見られず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・切られているとした割れ目の存在となる割れ目が分布しないため「切っている」とは言い切れないことから「止めている」に変更した。 ・割れ目の存在物について追記した。 ・割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ・表現の適正化(ほぼ)	41.40	41.57	41.40m・45°、41.57m・50°の割れ目は、いずれもほぼ直交する傾斜55°の割れ目を止めている。いずれの割れ目にも挟み物は見られず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。

H24-D1-3 41.50~46.28m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由	記事		記事
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
130	41.50	44.30	一部の割れ目ないし割れ目ぞいにマンガン鉱染、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。	41.50	44.30	一部の割れ目ないし割れ目ぞいにマンガン鉱染、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。	41.50	44.30	41.50~44.30m:一部の割れ目と割れ目ぞいにマンガン鉱染が見られ、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。
131	42.04	42.04	58° 幅2mm石英脈が母岩に密着して連続。	-	-		42.04	42.04	42.04m:傾斜58°で幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。
132	42.08	42.12	42.08m・50°、42.12m・40°の各割れ目に各々、幅2mm灰白色の固結粘土脈、幅2mmに及び黄褐色の軟弱粘土脈をそれぞれはさむ。	42.08	42.12	42.08m・50°、42.12m・40°の各割れ目に各々、幅2mm灰白色の硬質粘土脈、幅2mmに及び黄褐色の軟弱粘土脈をそれぞれはさむ。	42.08	42.12	42.08m・50°、42.12m・40°の各割れ目に幅2mmの灰白色の硬質粘土脈、幅2mmのに及び黄褐色の軟弱粘土脈をそれぞれはさむ。
133	42.19	42.19	20° 幅1~2mm石英脈が母岩に密着して分布するが、38° 割れ目で切られて不連続となる(変位量は少ない)。	42.19	42.19	20° 幅1~2mm石英脈が母岩に密着して分布するが、38° 割れ目で切られて不連続となる(変位量は少ない)。	42.19	42.19	42.19m:傾斜20°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。
134	43.08	43.08	45° 幅8~10mmで淡緑灰色化(緑泥石化)粘土化などの劣化は伴わない。	43.08	43.08	45° 幅8~10mmで淡緑灰色化(緑泥石化)粘土化などの劣化は伴わない。	43.08	43.08	43.08m:傾斜45°で幅8~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。粘土化などの劣化は伴わない。
135	43.14	43.14	50° 割れ目に幅1~2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。	43.14	43.14	50° 割れ目に幅1~2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。	43.14	43.14	43.14m:傾斜50°で幅1~2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。
136	43.60	43.61	43.60m・50°と43.61m・60°の割れ目に囲まれ、φ2~5mmに細片化~砂状化する。43.60m・50° 割れ目の一部に、灰黄色の幅1mmの固結粘土が付着する。	43.60	43.61	43.60m・50°と43.61m・60°の割れ目に囲まれ、φ2~5mmに細片化~砂状化する。43.60m・50° 割れ目の一部に、灰黄色の幅1mmの硬質粘土が付着する。	43.60	43.61	43.60m・60°と43.61m・60°の割れ目に囲まれ、径2~5mmに細片~砂状化する。上端側の割れ目の一部に幅1mmの灰黄色の硬質粘土が付着する。
137	44.01	44.29	硬さDに軟化し、割れ目の一部は薄く砂状化することが多い。44.12m・50° 割れ目に幅2mm風化、黄褐色粘土脈をはさむ。	44.01	44.29	硬さDに軟化し、割れ目の一部は薄く砂状化することが多い。44.12m及び44.14m・50° 割れ目に幅2mm風化、黄褐色粘土脈をはさむ。	44.01	44.29	44.01~44.29m:軟質化し、割れ目の一部は薄く砂状化する。44.12m及び44.14mの傾斜50°の割れ目に幅2mmで風化し黄褐色を呈する粘土脈をはさむ。
138	44.29	47.37	40~60° 割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する60~80° 割れ目も分布する。上記割れ目同系の角度で、低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈をはさむが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53~46.60mは変質粘土化部で軟質である。	44.29	47.37	40~60° 割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する60~80° 割れ目も分布する。上記割れ目同系の角度で、低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈をはさむが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53~46.60mは変質粘土化部で軟質である。	44.29	47.37	44.29~47.37m:傾斜40~60°の割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する傾斜60~80°の割れ目も分布する。上記割れ目と同系統の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈をはさむが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53~46.60mは変質粘土化部で軟質である。
139	44.49	44.49	50° 割れ目は一部珪化と淡緑灰色(緑泥石化)を伴う。また、微細なφ0.5mm以下の雲母が晶出している。	44.49	44.49	50° 割れ目は一部珪化と淡緑灰色(緑泥石化)を伴う。また、微細なφ0.5mm以下の白雲母が晶出している。	44.49	44.49	44.49m:傾斜50°の割れ目は一部珪化と緑泥石化による淡緑灰色化を伴う。また、径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。
140	44.91	44.91	52° 割れ目は幅2~3mmの軟弱な明黄褐色(10YR 6/6)をはさむ。	44.91	44.91	52° 割れ目は幅2~3mmの軟弱な明黄褐色(10YR 6/6)粘土脈をはさむ。	44.91	44.91	44.91m:傾斜52°で幅2~3mmの軟弱な明黄褐色粘土脈をはさむ。
141	45.32	45.32	55° 割れ目ぞいの幅約5mm前後が淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な白雲母が晶出している。	45.32	45.32	55° 割れ目ぞいの幅約5mm前後が淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な白雲母が晶出している。	45.32	45.32	45.32m:傾斜55°の割れ目ぞいの幅約5mm前後が緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。
142	45.57	45.57	55° はせん断性割れ目。交差する60°と80°割れ目を切っている(変位量約10mm)。	45.57	45.57	55° のせん断性割れ目は、交差する60°と80°割れ目を止めている。切っ端に(変位量約40mm)、割れ目には隙間物が埋られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.57	45.57	45.57m:傾斜55°の割れ目は、交差する60°と80°の割れ目を止めている。割れ目には隙間物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
143	45.80	45.87	70° 低密着割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。	45.80	45.87	70° 低密着割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。	45.80	45.87	45.80~45.87m:傾斜70°の低密着割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。
144	46.23	46.23	57° 割れ目に幅5mmの固結粘土脈をはさむ。	46.23	46.23	57° 割れ目に幅5mmの灰白色の硬質粘土脈をはさむ。	46.23	46.23	46.23m:傾斜57°で幅5mmの灰白色の硬質粘土脈をはさむ。
145	46.28	46.28	50° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5~1mmの雲母が晶出している。	46.28	46.28	50° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5~1mmの白雲母が晶出している。	46.28	46.28	46.28m:傾斜50°の割れ目ぞい幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5~1mmの白雲母が晶出する。

H24-D1-3 46.53~49.93m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事を削除・変更・追記した理由	選定した記事内容	
146	46.53	46.60	46.53	46.60	<ul style="list-style-type: none"> 細粒部の挟在や原岩組織や定向配列の有無について追加した マンガン濃集部であることを追記した 層状でない岩片を見られるため「扁平」を削除した 真傾を測定して厚さを変更した 追記した状況から破砕部ではないと判断して「黒褐色」を削除した 表観の適正化(受け) 	46.53~46.80m:上端40°で直線的にシャープに連続。下端40°で不明瞭である。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した岩片を多く含むマンガン濃集部である。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟在や含まれる岩片の定向配列は見られない。原岩組織が認められる。全体に明褐色~黒褐色を呈する。幅40mm以上。	46.53	46.60
147	46.87	46.92	46.87	46.92	<ul style="list-style-type: none"> 表観の適正化(扱い) 	46.87~46.92m:傾斜40~60°の割れ目扱いのマンガン鉱染が著しく、黒褐色化する。	46.87	46.92
148	47.20	47.20	47.20	47.20	<ul style="list-style-type: none"> 表観の適正化(軟弱⇒軟質) 	47.20m:傾斜50°の割れ目に幅0.5mm以下のごく薄い軟質な灰白色粘土が断片的に付着している。	47.20	47.20
149	47.37	47.66	47.37	47.66	<ul style="list-style-type: none"> せん断性割れ目としての割れ目と推断する割れ目が見られる。また、不規則状の割れ目は系統的ではないためせん断性割れ目ではない。 割れ目周辺の状況について追記した 上記や追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した 	47.37~47.66m:傾斜50°の直線的にシャープな割れ目が4本平行に分布し、これに斜交~直交する30~80°の不規則に連続する割れ目や低密着割れ目が分布する。前者は直線的でシャープに連続するせん断性割れ目、後者はせん断性割れ目から生じたせん断面の可能性がある。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	47.37	47.66
150	47.52	47.52	-	-	-	47.52m:傾斜50°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着するが、脈中央部から割れ目化している。	47.52	47.52
151	47.66	48.35	-	-	-	47.66~48.35m:傾斜50°前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80°の割れ目がこれらに交差する。	47.66	48.35
152	48.11	-	48.11	48.48	<ul style="list-style-type: none"> 硬さBランクの下端深度を追記した 	48.11~48.48mは硬さBと堅硬になる。	-	-
153	48.11	48.11	48.11	48.11	<ul style="list-style-type: none"> 不連続なマンガン濃集部であることを追記した 不連続な細粒部を伴わないため破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した 表観の適正化(伴う) 	48.11m:傾斜75°と40°の割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分は径5mm前後の破砕角破砕を呈する不連続なマンガン濃集部で、軟質である。粘土化は伴わない。	48.11	48.11
154	48.35	49.35	48.35	49.35	<ul style="list-style-type: none"> 表観の適正化(挟む) 	48.35~49.35m:傾斜30~60°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。	48.35	49.35
155	48.48	48.56	48.39	48.56	<ul style="list-style-type: none"> 傾記の修正(48.49⇒48.39) 表観の適正化(挟む) 	48.39m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~径5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	48.39	48.56
156	48.71	48.71	48.71	48.71	<ul style="list-style-type: none"> 粘土の幅を追記した 表観の適正化(軟弱⇒軟質、挟む) 	48.71m:傾斜55°で幅~2mmの軟質な黄褐色粘土脈を挟む。	48.71	48.71
157	49.21	49.21	49.21	49.21	<ul style="list-style-type: none"> 49.10m付近の幅10mm程度の連化脈及び49.12mの傾斜割れ目は75°のせん断性割れ目としているものを推断するたため「切っている」は「横断する」もしくは「止めている」に変更し、真位置の記載を削除した 割れ目及び周辺状況について追記した 上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した 表観の適正化(ほほ) 	49.21m:傾斜75°の割れ目は、ほぼ直交する傾斜40°の割れ目や連化した脈に横断される。もしくは、傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	49.21	49.21
158	49.35	49.93	-	-	-	49.35~49.93m:硬さ「B」と堅硬で、一部を除き、割れ目は少なくなり、割れ目も砂や粘土などの挟在物は殆んど分布しない。60~70°とこれに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。	49.35	49.93
159	49.35	49.93	49.35	49.93	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目に挟在物を伴わないため割れ目状態のランクもランクに変更した 	(割れ目状態欄)ランク	49.35	49.93

H24-D1-3 49.71~52.13m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由	記事		記事
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容		
160	49.71	49.71	50° 割れ目が1~2mm砂状化する以外には粘土も含め挟在物は分布しない。	49.71	49.71	50° 割れ目が幅1~2mm砂状化する以外には粘土も含め挟在物は分布しない。	49.71	49.71	49.71m: 傾斜50° で幅1~2mmが砂状化する。
161	49.61	49.61	75° 割れ目はせん断性割れ目で、その下盤側で本の10~30° 割れ目を切っている(変位量不明)。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。	49.61	49.61	75° 割れ目はせん断性割れ目で、その下盤側で本の10~30° 割れ目を止めている。切っけている変位量不明。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	49.61	49.61	49.61m: 傾斜75° の割れ目は、その下盤側で7本の傾斜10~30° の割れ目を止めている。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
162	49.93	50.76	50~60° 割れ目。低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	49.93	50.76	50~60° 割れ目。低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	49.93	50.76	49.93~50.76m: 傾斜50~60° の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。
163	-	-	-	50.09	50.47	50~55° の割れ目に幅1~3mm褐色砂状化が見られる。	50.09	50.47	50.09~50.47m: 傾斜50~55° の割れ目に幅1~3mmで褐色の砂状化が見られる。
164	50.76	51.24	硬さBで堅硬である。50~60° 割れ目主体で、50.84m・55° 幅2mm風化砂状化する以外は割れ目の挟在物はない。	50.76	51.24	硬さBで堅硬である。50~60° 割れ目主体で、50.91m・55° 幅2mm風化砂状化する以外は割れ目の挟在物はない。	50.76	51.24	50.76~51.24m: 堅硬である。傾斜50~60° の割れ目主体で、50.91mに傾斜55° で幅2mmの風化砂状化部が見られる以外は割れ目の挟在物はない。
165	-	-	-	50.87	50.87	傾斜45°、幅2~3mmの石英脈を挟む。	50.87	50.87	50.87m: 傾斜45° で幅2~3mmの石英脈を挟む。
166	51.24	52.13	硬さBの岩片も含むが、全体的には硬さC主体。互いに直交する40~60° の割れ目。低密着割れ目からなり、一部でこれら両者と交差する70~80° も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟質な明黄褐色(10YR 7/6)の粘土脈が数箇所分布する。	51.24	52.13	硬質な岩片も含むが、全体的にはやや硬質主体。互いに直交する40~60° の割れ目。低密着割れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する70~80° も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟質な明黄褐色(10YR 7/6)の粘土脈が数箇所分布する。	51.24	52.13	51.24~52.13m: 硬質な岩片も含むが、全体的にはやや硬質主体である。互いに直交する傾斜40~60° の割れ目。低密着割れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する傾斜70~80° の割れ目も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟質な明黄褐色の粘土脈が数箇所分布する。
167	51.74	51.74	40° 幅5mmの軟弱な褐色(7.5YR 6/8)が直線的に連続する。下盤側5~8mmに淡灰緑色化(緑泥石化)する。	51.74	51.74	40° 幅5mmの軟弱な褐色(7.5YR 6/8)粘土が直線的に連続する。下盤側幅5~8mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。	51.74	51.74	51.74m: 傾斜40° で幅5mmの軟弱な褐色粘土が直線的に連続する。下盤側幅5~8mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。
168	51.93	52.13	硬さCないしDJが10mm前後に細片化し、岩片間の一部に厚さ0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	51.93	52.13	やや硬質~やや軟質で10mm前後に細片化し、岩片間の一部に厚さ0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	51.93	52.13	51.93~52.13m: やや硬質~やや軟質で10mm前後に細片化し、岩片間の一部に厚さ0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。

H24-D1-3 52.13~52.72m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
	記事	記事	記事	記事		記事	記事		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		
			コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>				
169	52.13	52.28	破砕帯	52.13	52.28	破砕部		●52.13~52.28m:破砕部 52.13m:粘土状部(He-1) 傾斜50°で幅4~5mmの軟質な灰白色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。 52.13~52.16m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°で直線的にシャープに、下端46°で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5~20mmと膨縮する。 52.16~52.28m:粘土混じり岩片状部(Hi) 上端46°、下端60°でともに一部不明瞭で波打って連続。径5~10mmの粘土化~硬さ[D]ない[F]の岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土断が網状に分布する。52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため、粘土の存在が不明な区間がある。明褐色~黒褐色を呈する。	
170	52.13	52.13	He-1 50°幅4~5mmの軟質な灰白色粘土(7.5YR 7/3)の粘土で、φ1mm前後の石英粒を含む。直線的なせん断面である。	52.13	52.13	He-1(最新活動面) 50°幅4~5mmの軟質な灰白色粘土(7.5YR 7/3)の粘土で、φ1mm前後の石英粒を含む。直線的なせん断面である。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			
171	52.13	52.16	Hb 上端40°、下端46°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒、φ3~5mmのOp岩片を含む硬質粘土で、粘土は灰白色(7.5YR 8/2)を呈する。全体の色調は灰褐色(7.5YR 6/2)で厚さ5~10mmと膨縮している。	52.13	52.16	Hb 上端50°、下端46°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒、φ3~5mmのOp岩片を含む粘土質礫状部で粘土は灰白色(7.5YR 8/2)を呈する。全体の色調は灰褐色(7.5YR 6/2)で厚さ5~20mmと膨縮している。 やや軟質。基質も細粒部は単目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	52.13	52.28	●52.13~52.28m:破砕部 52.13m:粘土状部(He-1) 傾斜50°で幅4~5mmの軟質な灰白色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。 52.13~52.16m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°で直線的にシャープに、下端46°で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5~20mmと膨縮する。 52.16~52.28m:粘土混じり岩片状部(Hi) 上端46°、下端60°でともに一部不明瞭で波打って連続。径5~10mmの粘土化~硬さ[D]ない[F]の岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土断が網状に分布する。52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため、粘土の存在が不明な区間がある。明褐色~黒褐色を呈する。
172	52.16	52.28	H 上端46°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で波打って連続する。φ5~10mmの粘土化~硬さDないLEの岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土断が網状に分布する。ただし、52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐色~黒褐色で厚さ120mm(コア長)。	52.16	52.28	H 上端46°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で波打って連続する。φ5~10mmの粘土化~硬さDないLEの岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土断が網状に分布する。ただし、52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐色~黒褐色で厚さ120mm(コア長)。 やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
173	52.28	52.51	φ5~30mmの硬さDないLEの角礫と砕けた砂層状の基質からなる角礫構造部(カクレーサイト)。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずか。	52.28	52.51	φ5~30mmの硬さDないLEの角礫と硬質な砂層状の基質からなる割れ目密集部で岩片化している。角礫構造部(カクレーサイト)。割れ目にマンガンが充填している。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずか。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。	52.28	52.51	52.28~52.51m:径5~30mmの硬さDないLEの角礫と硬質な砂状の基質からなる割れ目密集部で岩片化する。割れ目にマンガンが充填する。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずかである。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。
174	52.51	52.51	48°割れ目の上端側15~20mmは淡灰緑色化(緑泥石化)	52.51	52.51	48°割れ目の上端側15~20mmは淡灰緑色化(緑泥石化)	52.51	52.51	52.51m:傾斜48°の割れ目の上端側15~20mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。
175	52.51	52.60	上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が軟化著しい。粘土化は殆んど伴わない。	52.51	52.60	上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が軟化著しい。粘土化は殆んど伴わない。	52.51	52.60	52.51~52.60m:上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。粘土化は殆んど伴わない。
176	52.60	52.85	φ10~30mmの硬さCないDの岩片からなる角礫構造部であるが上位に比べ、砂質土の基質は殆んど分らない。粘土化はないが、岩片の一部は砂状化する。	52.60	52.85	φ10~30mmの硬さCないDの岩片からなる割れ目密集部。岩片化している。角礫構造部~砂状土位に比べ、砂状の基質は殆んど分らない。粘土化はないが、岩片の一部は砂状化する。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。	52.60	52.85	52.60~52.85m:径10~30mmの硬さCないDの岩片からなる割れ目密集部で岩片化する。上位に比べ砂状の基質は殆んど分らない。粘土化はないが、岩片の一部は砂状化する。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。
177	52.72	52.72	45°の割れ目は多数の交差する割れ目を切るせん断性割れ目(変位量不明)	52.72	52.72	45°の割れ目は多数の交差する割れ目を止めて、切るせん断性割れ目+変位量不明。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	52.72	52.72	52.72m:傾斜45°の割れ目は多数の交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。

H24-D1-3 52.85~56.88m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
178	52.85	52.93	上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さが残留する。45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白色~にぶい橙褐色(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。	上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さが残留する。45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白色~にぶい橙褐色(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。	・表視の適正化(軟質化、乏しく、軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載消滅)	52.85	52.93	52.85~52.93m:上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さ「D」が残留する。傾斜45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白色~にぶい橙褐色の軟質粘土が付着する。
179	52.93	53.29	40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目からなる。割れ目自体の一部は薄く砂状化する。	40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目自体の一部は薄く砂状化する。	・表視の適正化(扱い) ・文章の適正化(割れ目からなる⇒分布する)	52.93	53.29	52.93~53.29m:傾斜40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目自体の一部は薄く砂状化する。
180	53.29	53.50	互いに交差する50~70°割れ目、低密着割れ目からなる。割れ目には幅1mm前後の灰白~風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。岩片は硬さ「C」~「D」である。	互いに交差する50~70°割れ目、低密着割れ目が分布する。割れ目には幅1mm前後の灰白~風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。岩片は硬さ「C」~「D」である。	・文章の適正化(割れ目からなる⇒分布する) ・表視の適正化(軟弱⇒軟質)	53.29	53.50	53.29~53.50m:互いに交差する傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が分布する。割れ目には幅1mm前後の灰白~風化による黄褐色の軟質粘土が付着する。岩片は硬さ「C」~「D」である。
181	53.50	53.62	著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土脈が幅1~3mmで網状に分布する。			53.50	53.62	53.50~53.62m:著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土脈が幅1~3mmで網状に分布する。
182	53.62	54.20	硬さ「C」ない「D」で、40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目は粘土脈はさまれないが一部で薄く砂状化~径2~3mmの破砕塊状部を挟む。隙に定向配列は見られない。	硬さ「C」ない「D」で、40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目は粘土脈はさまれないが一部で薄く砂状化~径2~3mmの破砕塊状部を挟む。隙に定向配列は見られない。	・含まれる稜の定向配列の有無について追記した ・割れ目に細粒部を伴わず、含まれる隙に定向配列が見られないため「破砕」を削除した ・表視の適正化(ほぼ、挟む)	53.62	54.20	53.62~54.20m:傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目に粘土脈は挟まれないが、一部で薄く砂状化~径2~3mmの塊状部を挟む。隙に定向配列は見られない。
183	54.20	54.20	45°割れ目は幅3~6mmで砂状~破砕塊をはさまる。マンガン鉱染により黒褐色化する。	45°割れ目は幅3~6mmの粘土質~シルト質砂状~破砕塊を挟む。が、マンガン鉱染により黒褐色化する。	・挟まれる砂は粘土~シルト質で開口部を充填した流入物と判断して「破砕」を削除した ・マンガン鉱染による黒褐色化が見られないため削除した ・表視の適正化(挟む)	54.20	54.20	54.20m:傾斜45°で幅3~6mmの粘土~シルト質の砂~塊を挟む。
184	54.20	55.18	互いにほぼ直交する50~60°割れ目が主体で、54.83m~50°割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目には砂状化部や粘土脈はさまれない。岩片は硬さBで比較的割れ目は少ない。	互いにほぼ直交する50~60°割れ目が主体で、54.83m~50°割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目には砂状化部や粘土脈はさまれない。岩片は硬さBで比較的割れ目は少ない。	・表視の適正化(ほぼ、挟む) ・文章の適正化(割れ目は⇒割れ目に)	54.20	55.18	54.20~55.18m:互いにほぼ直交する傾斜50~60°の割れ目が主体で、54.83mの傾斜50°の割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目に砂状化部や粘土脈を挟まない。比較的割れ目は少ない。
185	55.18	56.71	40~60°割れ目とこれらに斜交~直交する40~50°が主体で、55.53m以後では風化で割れ目自体が砂状化することが多いが、以深では分布は少なくなる。粘土脈は分布しない。	40~60°割れ目とこれらに斜交~直交する40~50°が主体で、55.53m以後では風化で割れ目自体が砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土脈は分布しない。	・表視の適正化(扱い) ・文章の適正化(分布⇒砂状化)	55.18	56.71	55.18~56.71m:傾斜40~60°の割れ目とこれらに斜交~直交する傾斜40~50°の割れ目が主体で、55.53m以後では風化で割れ目自体が砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土脈は分布しない。
186	55.49	55.53	55.49m~55°と55.53m~48°の両割れ目に囲まれた部分は淡緑灰色化(緑泥石化)し、各割れ目自体に幅1mmが風化で褐色の砂をはさまる。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着している。	55.49m~55°と55.53m~48°の両割れ目に囲まれた部分は淡緑灰色化(緑泥石化)し、各割れ目自体に幅1mmが風化で褐色の砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着している。	・コアに合わせて色調を変更した ・傾記の修正(「色」の記載消滅) ・表視の適正化(扱い、挟む、軟弱⇒軟質)	55.49	55.53	55.49m~55°と55.53m~48°の両割れ目に囲まれた部分は淡緑灰色化により淡緑灰色化し、各割れ目自体に幅1mmが風化で褐色化した砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着する。
187	56.49	56.49	15°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量8~10mm有ズレ)	15°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っている(変位量8~10mm有ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・15°の割れ目を境に斜交する割れ目に系統性が見られないため「切っている」を「止めている」に変更し、変位量の記載は削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	56.49	56.58	56.49m~15°及び56.58m~55°の割れ目は、いずれも交差する割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
188	56.58	56.58	55°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量2~3mm有ズレ)	55°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っている(変位量2~3mm有ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・55°の割れ目と横断する割れ目も見られるため「切っている」を「止めている」に変更し、変位量の記載は削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した			上記でまとめ書きしたため記載しない
189	56.71	56.88	40~60°割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土をはさまることが多い。	40~60°割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多い。	・表視の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	56.71	56.88	56.71~56.88m:傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多い。

H24-D1-3 56.71~58.53m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事	記事	記事		記事	記事		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
190	56.71	56.71	45° 割れ目は幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈をはさみ、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出している。	56.71	56.71	45° 割れ目は幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出している。	56.71	56.71	56.71m: 傾斜45°で幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、緑泥石化により暗緑色化する。また、径0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出する。
191	56.88	57.24	破砕帯	56.88	57.24	破砕帯	56.88	57.24	●56.88~57.24m: 破砕帯 56.88~57.15m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的にシャープに、下端68°で波打って連続。径5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。 57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)
192	56.88	57.15	H 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)	56.88	57.15	H 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)	56.88	57.15	●56.88~57.24m: 破砕帯 56.88~57.15m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的にシャープに、下端68°で波打って連続。径5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。 57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)
193	57.15	57.20	Hb 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1~2mm石英粒、φ5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)	57.15	57.20	Hb 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1~2mm石英粒、φ5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)	57.15	57.20	●56.88~57.24m: 破砕帯 56.88~57.15m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的にシャープに、下端68°で波打って連続。径5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。 57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)
194	57.20	57.20	(主せん断面)Hc-1 60°、厚さ2~8mmの軟弱なふい黄色色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシャープに連続する。	57.20	57.20	(最新活動面)Hc-1 60°、厚さ2~8mmの軟弱なふい黄色色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	57.20	57.20	●56.88~57.24m: 破砕帯 56.88~57.15m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的にシャープに、下端68°で波打って連続。径5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。 57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)
195	57.20	57.24	H 上端80°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化~硬さDのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。	57.20	57.24	H 上端80°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化~硬さDのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。	57.20	57.24	●56.88~57.24m: 破砕帯 56.88~57.15m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的にシャープに、下端68°で波打って連続。径5~20mmの粘土化~硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。 57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5~30mmの粘土化したGp塊を多く含む軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)~白色、厚さ270mm(コア長)
196	57.24	58.03	40~60° 割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5~1mmの軟質灰白色粘土脈も一部にはさまれる。	57.24	58.03	40~60° 割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5~1mmの軟質灰白色粘土脈も一部にはさまれる。	57.24	58.03	57.24~58.03m: 傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5~1mmの軟質灰白色粘土脈も一部にはさまれる。
197	57.90	57.94	40° 割れ目、割れ目に砂状化が進み、57.90m~40° 割れ目、割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	57.90	57.94	40° 割れ目、割れ目に砂状化が進み、57.90m~40° 割れ目、割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	57.90	57.94	57.90~57.94m: 傾斜40°の割れ目、割れ目に砂状化が進み、上端側の割れ目、割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。
198	-	-	-	58.00	58.00	傾斜60°、幅8~10mmでマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。	58.00	58.00	58.00m: 傾斜60°で幅8~10mmのマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。
199	58.03	58.29	互いに交差する50~60°からなる、一部で同角の低密着割れ目も分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	58.03	58.29	互いに交差する50~60°の割れ目が分布する。一部で同角の低密着割れ目も分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	58.03	58.29	58.03~58.29m: 互いに交差する傾斜50~60°の割れ目と一部で同角の低密着割れ目が分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。
200	58.29	58.53	(岩級区分)D	58.29	58.53	(岩級区分)CL	58.29	58.53	(岩級区分)CLに含める
201	58.29	58.53	φ5~30mmの硬さC岩片と構った砂状の基質からなる角礫構造部(カクレーサイト)で、58.33m~40° 割れ目に厚さ0.5~3mmの軟質灰白色(2.5YR 8/2)粘土脈を伴う。	58.29	58.53	φ5~30mmの硬さC岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫構造部(カクレーサイト)で、58.33m~40° 割れ目に厚さ0.5~3mmの不連続で軟質灰白色(2.5YR 8/2)粘土脈を伴う。角礫構造部には原岩組織が認められ、含まれる際に移動や回転は見られない。	58.29	58.53	58.29~58.53m: 径5~30mmの硬さC岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫構造部で、58.33mの傾斜20°の割れ目に幅0.5~3mmの軟質灰白色粘土脈を不連続に伴う。角礫構造部には原岩組織が認められ、含まれる際に移動や回転は見られない。

H24-D1-3 58.40~59.46m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
202	58.40	58.46	一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	-		58.40	58.46	58.40~58.46m:一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
203	58.53	60.00	互いに交差する30~70° 割れ目。低密着割れ目が主体で上端側の58.53~58.91mと、下端側の59.90~60.00mはいずれも硬さCで、その他は硬さBである。また、58.66~58.71mは砂状化と実質が混んで着しく軟質化した硬さEである。硬さBの58.91~59.90mでは割れ目は多いが、割れ目には挟在物は殆んどない。	58.53	60.00	互いに交差する30~70° 割れ目。低密着割れ目が主体で上端側の58.53~58.91mと、下端側の59.90~60.00mはいずれも硬さCで、その他は硬さBである。また、58.66~58.71mは砂状化と実質が混んで着しく軟質化した硬さEである。硬さBの58.91~59.90mでは割れ目は多いが、割れ目には挟在物は殆んどない。	・表視の適正化(軟質化)	58.53	60.00	58.53~60.00m:互いに交差する傾斜30~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、58.66~58.71mは砂状化と実質が混んで着しく軟質化している。58.91~59.90m間は割れ目が多いが、割れ目に挟在物は殆んどない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
204	59.90	60.00	割れ目ぞいにやや風化が進み、薄く砂状化するものがある。	59.90	60.00	割れ目ぞいにやや風化が進み、薄く砂状化するものがある。	・表視の適正化(扱い、やや)	59.90	60.00	59.90~60.00m:割れ目ぞいに風化がやや進み、薄く砂状化するものがある。	-
205	59.46	59.46	45° 割れ目ぞいに幅5~10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土層ははさまれない。	59.46	59.46	45° 割れ目ぞいに幅5~10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土層ははさまれない。	・表視の適正化(扱い、挟む) ・鑑物名を適正化した(雲母⇒白雲母)	59.46	59.46	59.46m:傾斜45°の割れ目ぞいに幅5~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土層は挟まれない。	-
206	60.00	60.00	60mで換尺	60.00	60.00	60mで換尺	・コア観察の情報ではないため削除した	-	-	-	-

余白

H24-D1-2

H24-D1-2 0.00~9.06m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	記事	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
				記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1					・地質者に合わせて土の区間を追記した		0.00	6.81	0.00~6.81m: 盤土
2	0.06	0.31	φmax3cm 黒色の細粒砂岩・頁岩片	φ最大3cm 黒色の細粒砂岩・泥岩片からなる。	・地質者及び区間深度を追記した ・表視の適正化(max⇒最大) ・コアに合わせて岩種を変更した		0.00	0.31	0.00~0.31m: 最大径30mmの黒色の細粒砂岩、泥岩片からなる。
3	0.31	2.84	砂礫 φmax3×6cmの角礫だが、大半は10mm以下の細礫〜粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はごく少量であり、ルーズである。大半は花崗斑岩あるいはアフライト起源であるが極に黒色の頁岩片を含む。	砂礫 φ最大3×6cmの角礫だが、大半は10mm以下の細礫〜粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はごく少量であり、ルーズである。大半は花崗斑岩あるいはアフライト起源であるが極に黒色の頁岩片を含む。	・区間深度を追記した ・表視の適正化(max⇒最大、m/m⇒mm、不均一⇒不均質) ・記載の修正(「径」の記載消滅) ・コアに合わせて岩種を変更した		0.31	2.84	0.31~2.84m: 砂礫 最大径30×60mmの角礫であるが、径10mm以下の細礫〜粗砂を主体とする。粒度は不均質であるが、細粒分は極少量であり、ルーズである。礫は花崗斑岩、アフライト主体であるが、まれに黒色泥岩を含む。
4	2.84	6.81	シルト質砂礫 φmax16cm、大半が花崗斑岩だがアフライト礫も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。	シルト質砂礫 φ最大16cm、大半が花崗斑岩だがアフライト礫も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。	・区間深度を追記した ・表視の適正化(max⇒最大、見る やや)		2.84	6.81	2.84~6.81m: シルト質砂礫 最大径160mmの花崗斑岩が主体で、アフライト礫も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。
5	3.3	3.45	粘板岩層が混入する。	泥岩層が混入する。	・表視の統一(3.36) ・コアに合わせて岩種を変更した		3.30	3.45	3.30~3.45m: 泥岩層が混入する。
6				径4mmのモルタル片を含む	・モルタル片は断面と異なる状況であるため追記した		3.82	3.82	3.82m: 径40mmのモルタル片を含む。
7	4.00	6.81	色調(横) 記載なし	色調(横) 2.57/4にぶい黄	・コアに合わせて色調を追記した		4.00	6.81	色調(横) にぶい黄
8	4.35	4.35	4.35m付近に炭質物片あり。	4.35m付近に径50mmの炭質物片あり。	・炭質物の大きさを追記した		4.35	4.35	4.35m: 径50mmの炭質物片を含む。
9	6.81	6.81	6.81mで着岩				-	-	・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
10			φ2~10mmの石英と長石の両品からなる花崗斑岩(Qp)で、長石は白濁化している。	6.81~33.00m 花崗斑岩 φ2~10mmの石英と長石の両品からなる花崗斑岩(Qp)で、深度10.58m以下の長石は白濁化している。21.12m以深は所々、アフライトに近い岩相を呈する。	・地質者及び区間深度を追記した ・長石の白濁化が見られる深度を追記した ・アフライトに近い岩相があることを示し、その深度を追記した		6.81	33.00	6.81~33.00m 花崗斑岩 縦層は径2~10mmの石英と長石からなる。深度10.58m以下の長石は白濁化している。21.12m以深は所々、アフライトに近い岩相を呈する。
11	6.81	10.58	40~60°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交〜直交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。	40~60°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交〜直交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。	・表視の適正化(横む、軟質⇒軟質)		6.81	10.58	6.81~10.58m: 傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交〜直交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。
12	7.05	7.63	コアの形状欄) Vランク	コアの形状欄) IVランク	・断面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した		7.05	7.63	コアの形状欄) IVランク
13	7.10	7.10	60°割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土脈をはさむ。	60°割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土脈を挟む。	・表視の適正化(横む、軟質⇒軟質)		7.10	8.11	7.10m、8.11m: 傾斜45~60°で幅0.5~2mmの白色軟質粘土脈を挟む。
14	8.11	8.11	45°割れ目に幅1~2mm白色軟質粘土脈をはさむ。	45°割れ目に幅1~2mm白色軟質粘土脈を挟む。	・表視の適正化(横む、軟質⇒軟質)		-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
15	8.11	8.32	コアの形状欄) Vランク	コアの形状欄) IVランク	・断面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した		8.11	8.32	コアの形状欄) IVランク
16	8.47	9.49	コアの形状欄) Vランク	コアの形状欄) IVランク	・断面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した		8.47	9.49	コアの形状欄) IVランク
17				傾斜55°の割れ目に沿って幅2~3mmが淡緑色化し、微細な白雲母が晶出する。	・緑色化や鉱物の晶出は断面と異なる状況であるため追記した		8.56	8.56	8.56m: 傾斜55°の割れ目沿いに幅2~3mmが淡緑色化し、微細な白雲母が晶出する。
18	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。また、粘土上層の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化	55°のせん断性割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。また、粘土上層の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・上層例が必ずしも上層とは限らないため上層に変更した ・粘土の連続性及び周辺岩盤の状況について追記した ・せん断性を示す状況は認められない ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表視の適正化(軟質⇒軟質)		8.89	8.89	8.89m: 傾斜55°の割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。上層割れ目はマンガン鉱染で黒色化した幅2mmの砂を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
19	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。長石を切断。	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。石英脈が横断するより長石は石英脈を挟んでズレていない。長石も切断。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・石英脈が横断するより長石は石英脈を挟んでズレていないことを追記した。「長石を切断」を削除した ・粘土の挟入の有無及び石英脈の周辺岩盤の状況について追記した		9.06	9.06	9.06m: 傾斜52°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断するより長石は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。

H24-D1-2 12.87~17.66m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
34	12.87	12.91	(硬砂度区分欄)Hb	12.87	12.91	(硬砂度区分欄)H	上記の記載に合わせて硬砂度区分を変更した。	12.87	12.91	(硬砂度区分)H	
35	12.97	15.24	上位に比べ割れ目が少なく硬さ[D]からなる。割れ目自体に風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土脈の分布は少ない。割れ目は40~60°が主体である。	12.97	16.24	上位に比べ割れ目が少なく硬さ[D]からなる。割れ目自体に風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土脈の分布は少ない。割れ目は40~60°が主体である。	・割記の修正(15.24⇒16.24) ・表現の適正化(治い)	12.97	16.24	12.97~16.24m:上位に比べ割れ目は少ない。割れ目自体に風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土脈の分布は少ない。傾斜40~60°の割れ目が主体である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
36	13.15	13.46	10~20°の割れ目が多く、割れ目自体は風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	13.15	13.46	10~20°の割れ目が多く、割れ目自体は風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	・表現の適正化(治い)	13.15	13.46	13.15~13.46m:傾斜10~20°の割れ目が多く、割れ目自体は風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	
37	13.73	13.77	55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線。かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟化する。	13.73	13.77	55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線。かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	・挿在する粘土について追記した ・表現の適正化(軟質化)	13.73	13.77	13.73~13.77m:傾斜55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線的にシャープに分布する。粘土化はないが、全体に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	
38	-	-		13.82	13.89	不規則な形状で褐色化している。	・褐色化の不規則な形状は周囲と異なる状況であるため追記した	13.82	13.89	13.82~13.89m:不規則な形状で褐色化する。	
39	14.20	14.20	50° 幅1mmで石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-			14.20	14.20	14.20m:傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	
40	14.30	14.30	45° 割れ目を中心に、幅5~10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴わない。	14.32	14.32	45° 割れ目に沿って、幅5~10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴わない。	・コアに合わせて深度を変更した ・表現の適正化(伴う) ・文章の適正化(中心⇒沿って)	14.32	14.32	14.32m:傾斜45°の割れ目自体に幅5~10mmが緑色化するが、粘土化などの劣化は伴わない。	
41	14.87	14.97	14.87m・60°と14.97m・62°はせん断性割れ目で、前者は交差する80° 割れ目を切り、後者は長石斑晶を切断している。	14.87	14.97	14.87m・60°と14.97m・62°のせん断性割れ目は、前者は交差する80° 割れ目を止めている。切り、後者は長石斑晶を横断しており、切断しているが、両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・14.87mの割れ目と交差する80°の割れ目は、この割れ目で止まっているが、対になる割れ目が分布せず、切っているかの判断ができないため「切る」を「止めている」に変更した ・14.97mの割れ目が長石斑晶を切断するとしているが、割れ目は長石を横断しているがズレはないため「切断」を削除した ・割れ目及び周辺の状態について追記した ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	14.87	14.97	14.87m・60°の割れ目は交差する80°の割れ目を止めており、14.97m・62°の割れ目は長石斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
42	15.10	15.28	15.10m・65°と15.28m・55°はせん断性割れ目で、前者は交差する割れ目を切り、後者は石英斑晶を切っている。	15.10	15.28	15.10m・65°と15.28m・55°のせん断性割れ目は、前者は長石斑晶を横断しており、ズレはない。切り、後者は石英斑晶を横断しており、ズレはない。また、横断する割れ目が見られる。両者ともズレは認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・15.10mの割れ目は横断する長石斑晶をずらしていないため「切る」を削除した ・15.28mの割れ目は横断する石英斑晶をずらしてならず、横断する割れ目が見られるため「切る」を削除した ・割れ目及び周辺の状態について追記した ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	15.10	15.28	15.10m・65°の割れ目は長石斑晶を横断し、15.28m・55°の割れ目は石英斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。また、これらの割れ目を横断する割れ目が見られる。両者とも挟在物は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
43	15.47	-	15.47m以深では、割れ目自体に幅1~2mmで風化により褐色化する。	15.47	-	15.47m以深では、割れ目自体に幅1~2mmで風化により褐色化する。	・表現の適正化(治い)	15.47	-	15.47m以深では、割れ目自体に幅1~2mmで風化により褐色化する。	
44	16.12	16.12	60° 割れ目自体に微小な金属鉱物が晶出している。	16.12	16.12	60° 割れ目自体に微小な金属鉱物が晶出している。	・表現の適正化(治い)	16.12	16.12	16.12m:傾斜60°の割れ目自体に微小な金属鉱物が晶出する。	
45	16.24	17.66	コアは全体に著しく軟化するEであるが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留している。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	16.24	17.66	コアは全層に著しく軟化するEであるが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留している。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	・表現の適正化(軟質化、原岩組織)	16.24	17.66	16.24~17.66m:コア全体が著しく軟化するが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留する。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
46	16.54	16.54	50°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目には挟在物はないが、1mm程度風化で褐色に砂状化。	16.54	16.54	50°のせん断性割れ目と交差する割れ目は止まっている。切っている。割れ目には挟在物はないが、幅1mm程度風化で褐色に砂状化。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・50°の割れ目は交差する割れ目を止めているが、対になる割れ目が分布せず、切っているかの判断ができないため「切っている」を「止まっている」に変更した ・割れ目および割れ目周辺の状態について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性、切っている」を削除した ・割記の修正(「幅」の記載漏れ)	16.54	16.54	16.54m:傾斜50°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。割れ目には挟在物はないが、幅1mm程度で風化で褐色に砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
47	16.12	17.46	(コアの形状欄)IVランク	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク	
48	17.05	17.30	φ50~100mmと従来より大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	17.05	17.30	φ5~10mmの従来より大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	・割記の修正(φ50~100mm⇒φ5~10mm) ・比較対象が曖昧であるため「従来より」を削除した	17.05	17.30	17.05~17.30m:径5~10mmの大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	
49	17.46	17.66	φ10~20mm前後の細片化。割れ目状況は不明	17.46	17.66	φ10~20mm前後に細片化。割れ目状況は不明	・表現の適正化(「の」⇒「に」) ・割れ目のどのような状況を示しているか不明であるため削除した	17.46	17.66	17.46~17.66m:径10~20mm前後に細片化する。	